

献呈の辞

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 明治大学政治経済研究所 公開日: 2010-03-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 白石, 四郎 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/8259

献呈の辞

關末代策先生の古稀記念号発刊にあたりお祝いの言葉を申し上げる機会を得たことは私の望外の喜びとするところである。

關末代策先生は明治大学の生んだ卓越せる経済学者であることは今さら申すまでもないことであるが、同時に財界においても経団連の創設に参与されるなど、先生の御活躍はひろく各界にわたるものであり、現在もなお和光大学経済学部長として後輩の指導育成にあたられておられるのである。

關先生は、大正七年明治大学政治経済学部を卒業後ただちに朝日新聞社に入社、のち大正十三年母校明治大学の講師に就任、翌十四年に専任助教授となられて以来、一時期を除くほかは政治経済学部を主として明治大学の教壇にたたれたのである。昭和四十一年、定年のゆえをもってしりぞかれることになったが、現在もなお非常勤のかたちで母校の為に後輩の指導にあたられている。

其の間、先生はわが政治経済学部の中心的存在として学部の発展に尽瘁され幾多の人材を育成されると共に、フランス経済学の紹介においてもわが国の学界に高い地位を築

かれた。昭和十六年から二十七年にかけて十年あまり明治大学を離れられたことは、わが学部にとりまことに遺憾なことであつたけれども、戦後、母校に再び復歸されてからというものは、大学の新制度への移行、大学院の創設などに才腕をふるわれること多く、まさに学部の重鎮であられた。先生の門下生で、現在政治経済学部の教授たる地位にある方々も相当数おられるのもゆえなしとしない。

關先生は、その御風貌から申しても真に大人物という言葉にふさわしい方であり、私どもの様な若輩にたいしても常に温かい態度で接しられ、あらゆる方面において懇切に御指導下された。

いま、時代はまさに変遷の時であるが、今後共、先生がいよいよ御壮健にて御活躍あらんことを祈って、献呈の辞とする次第である。

昭和四十四年五月

政治経済学部長

白石四郎